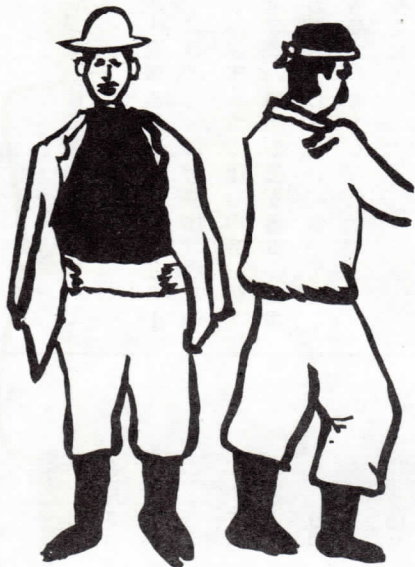


世界的不況のなかで、釜ヶ崎には仕事が少
ない。仕事にアブレた労働者は、ドヤを追わ
れ、「炊き出し」に長い列をつくる。それで
も、なんとかその日を生きるために、血を売
り、ダンボールなどの廃品を求め、釜ヶ崎か
ら他の地域に移動する。都市砂漠のなか、そ
こでは虫ケラのようにきらわれ、そうした大
人たちのところが反映し、横浜で起きたよう
なこともたちの殺傷事件が発生する。横浜で
補導された少年たちは「横浜の地下街がきた
なくて、酒くさいのは浮浪者がいるから。オ
レたちできれいにしよう」と供述したという。
釜ヶ崎では、このような情況が日常化してい
る。

をめぐって



第一次産業から第二次産業へ、石炭から石
油エネルギーへと日本の経済構造が転換し、
高度成長していく過程で、釜ヶ崎は日雇いの
労働者の街へと変貌し、人口が膨張していく。
安価で、いつでも切り捨て可能な労働力とし
てプールのされた日雇いの労働者は、木土、建築、
港湾、運輸、製造など、あらゆる産業部門に
動員され、高度経済成長を支えてきた。だが、
それは必要な時だけ。景気調整の安全弁とし
て利用され、年をとり、身体をこわして働け
なくなると、ボロ布同然に捨てられていく。
そのような矛盾に対して、釜ヶ崎の労働者
が大暴動であった。以来、二十数回に及ぶ暴

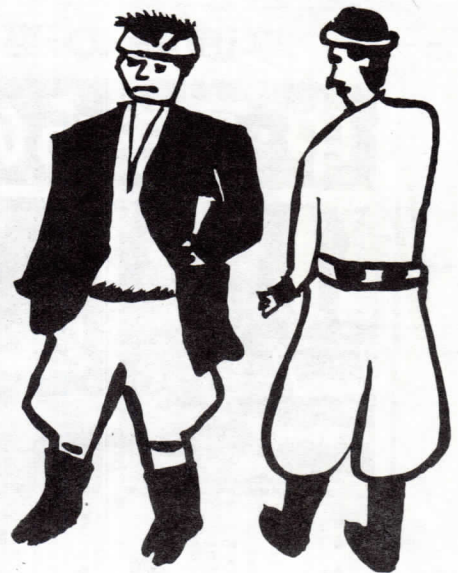
動の結果、一九七〇年（昭和四十五）に「あ
いりん総合センター」が設立され、その目玉
として「白手帳」（日雇労働被保険者手帳）
が交付されるようになった。白手帳は、のち
ほどふれるように仕事があつてのことだが、
二カ月に二十八日以上働いた証明があれば、
ひと月に十四日を限度として「アブレ手当」
が支給されるというもの。この「証明」には、
業者と労働者が折半する「就労印紙」を二十
八枚貼るか、そのような手続きをしていない
業者の場合、「就労申告書」でよかった。

日雇いの労働者の健康保険（青手帳）も白手
帳が基本になるし、夏・冬わずかに支給され
るソーマン代やもち代も白手帳による。近年
は、大阪市が正月に設営する臨時宿泊所の入
所基準も白手帳による。白手帳は、日雇いの
労働者のいわば「身分証明書」だ。こうして、
白手帳をもつ労働者が急増していった。

ところが、一九七三年（昭和四十八）の石
油危機から釜ヶ崎の求人にかげりがみえはじ
めた。それまで、早朝、労働センターに所狭
しと並んだ求人用のマイクロバスの数もまば
らとなり、職種も公共投資による建設部門に
変わってきた。働きたくても仕事がない。労
働者の選別がはじまる。従って、高齢、病弱、

報告・釜ヶ崎の状況

「白手帳」



身障など、最低生活の保障が必要な人たちは白手帳に印紙を貼ることが出来ない。結果は冒頭で述べたような情況だ。白手帳は、労働者を分断する役割を果している。

そこへ行財政改革による「福祉打ち切り」である。日雇い労働者の叫びによって勝ち取られた「白手帳」だが、まず昨年は、先に述べた「就労申告書」の廃止が行われた。廃止の理由を、行政は、「就労印紙以外の業者は一割程度に少なくなった」という大儀名文を掲げたが、「福祉打ち切り」は最も保障を必要とする弱い部分に、まず現われる。その背後に日雇い健保（青手帳）の廃止、そして「白手帳」の廃止の意図は明らか。労働者は

これまでの歴史、現状を踏まえ、苛酷な闘争を展開したが、ついに逮捕者が出る騒ぎになった。

一方、「手帳でお金を貸します」という金融業者が増えはじめた。「手帳で金を貸す」という噂は数年前から聞いていたが、おおっぴらに数十軒が営業をはじめたのは昨年から。融資の担保はほとんどが「白手帳」。就労印紙が少なく「アブレ手当」の保障がない場合は五千円程度。手当が確実な場合は数万円まで貸し付ける。月七〜八分の利子だが、ほかに「つけ馬」料を取る。

サラ金による家庭崩壊、自殺者急増が社会問題化し、去る国会で「サラ金規制法」が制

定されたが、問題は返せないことがわかっていても、借らざるを得ない現実だ。働きたくても仕事がない情況のなかでは背に腹はかえられない。「白手帳」で一万円借りた場合、利子は月八〇〇円。つけ馬料一回四〇〇円。ただし、十五日未満の貸し付け分の利子はたとえ一日でも十五日で計算する。返済出来ない分は改めて貸し付ける。労働者が朝、あいりん職安に「アブレ手当」を取りに行く際、金融業者から一時白手帳を借り出すためにつけ馬が同行する。手当てを受け取ると返済分と白手帳は回収される。

返済できなくて「釜におれない」と協友会や労働組合の窓口を訪ねる労働者が増えていく。金融業者は、返済できない労働者の顔写真を店頭貼り出し指名手配している。利子の返済に追われる労働者の数は数千人に及ぶと推定されている。噂では、結局、この白手帳は行政に買い上げられ、白手帳の制度そのものがなくなるのではないかという声がかかる。

「白手帳」の問題は、法より人権の問題だ。

マスコミ報道から

J 横浜事件の報道にみられる特徴はどうい

う点にあるのでしょうか。一つは単なる傷害ではなく殺人事件であったということにあると思うのですが。

S 中学生の暴力がここまで来たということでしょう。

O 単なる暴力でなく、遊び、人間を遊びで殺してしまったのですね。

J 遊びと同時に、「きたないものをかたづけようとした」という彼らの釈明がありましたね。

D 寿町の集会で夜間中学の先生が生徒の発言を紹介しておられたのです。「どうせ大人になっても日雇いみたいなことをする他ない」というそうです。そこには日雇いに對する差別があるし、自分もそうなるという恐れみたいなものがあるのですね。

N 「いじめ」が学校で常習的になっているわけですが、それが弱者に向けて集中されている状況があるのですね。

S マスコミは家庭崩壊の問題を背景として報道しました。何となく説教調で、修身の

教科書みたいな感じでしたね。

J マスコミの倫理キャンペーンはたしかにありますね。二月五日にこの事件があつて十六日に町田忠生中学事件があり、それとセットで報道されることになりましたね。

O 子供の行為の背後に大人社会のうらづけがある。弱い者への差別、きたないとして人間をゴミ箱に入れたわけでしょう。この残酷さと罪意識のなさは、今の社会の表われではないかと思う。

N そしてこれが集団で発生しているわけです。

O なぜ抵抗できなかったのでしょうか。N やられる側に連帯がないということが一つ。さわらない方がよいという恐怖感が他方にあるわけですね。釜ヶ崎にもその両面がみられるように思うのです。

S 報道の特徴の一つとして、被害者の立場から語っているのがほとんどない状態だったと思います。

N それはマスコミそのものが地域の問題にコミットしていないからだと思う。記者の

意識に格差があつて、コッコツ地域を歩く人はかなり適確な報道ができますね。

J マスコミとは何だろ。被害者の立場にコミットできないのですね。越冬パトロールの報道にもパターンがある。こういう貧しい状況があつてそれに心暖たまる奉仕をしているボランティア活動があるといったような。

N この取材はむづかしい問題があるのかなと思つたりもする。堂々と文章化できない重さとか、書いたら批判されるようなことがあつて弱腰になるのかもしれない。我々のなかにもあるし……。

J マスコミの人と話したときに、その点は大変むづかしいという。たとえば越冬パトロールをTVで流すニュースの時間は茶の間に家族がそろつて食事をしながらそれを見ているわけですね。それに対して貧しさと奉仕活動という一つの美談をセットにして茶の間に提供する。そうでなくて、「そのメシは誰のおかげで食えるのや」とやっってしまったらチャンネルは変えられるし、スポンサーもつかなくなってしまうのですね。だからシリアスな報道番組はドンドン夜中に押しやられてしまう。「美談」を求

めるマス（大衆）と、それを提供しようとするマスコミをどう越えられるかが問題ですね。だから説教調、修身教科書が大衆の間に求められるわけです。

管理強化

S 内閣は待ってましたとばかりに対策委をつくりましたね。ますます管理体制がきびしくなるのではないでしょう。子供の自由を尊重といいながら管理強化の方向ですよ。

N 三月二日に「青少年問題審議会」を開いています。六・三制を改革すべきというのと教員養成制度の見直しをして、教師の質を上げようというのが根本対策なのです。

短期対策としては、問題児を切りはなして対応していく。さらに校長を中心とした教員の意志統一、地域ぐるみ、家庭との連携ということ。もうすでに学校に卒業式のときなど警察がドンドン入っているわけでしょう。

今回の事件では十人の生徒が全員鑑別所に送られたのですね。

D あれは異例の措置なのでしょう？

S 今までは家に帰すとかしたのですが今回は全員鑑別所送りですね。こういう事実が当然のことになると少しこわいように思いますね。

N 文相が、「これは占領政策の落し子」という発言をしましたね。これもある考えを定着させるためだと思う。極端な発言をしておいてある種のところへ一歩近づくというようにね。右傾化のためのたくみなマスコミ操作ですね。

これで徴兵制へ近づくことができる。学校では駄目だから軍隊でやれ！

J 新入社員訓練などでも軍隊式がモテモテナンですね。先日もある研修所で目撃した

被害者の立場

J 先程話題になった、何故抵抗できなかったのだろうという点からどうですか。

S マスコミでみるかぎり二つのことをあげています。

一つは奇襲されたということ。他は被害者たちは暴力がきらいな平和主義者だったということですね。

けど、「返事が小さい」とかどなられてメシもおあずけになるのです。真面目にやっているのであつげにとられて見てたのですが、右傾化していくと日雇い労働者はどうなるのかな。原発などに否応なしに行かざるをえない状況もできていますね。

N 野本三吉さんが「必ず戦争になる。戦争にならないと気がつかない」といっていますね。

S こわいと思うのは被害者の声がほとんどでこなかったということですね。加害者の方も一人一人の心情がとんでしまっ、教育一般論になってしまったわけでしょう。マスコミは無視してしまいましたね。一人一人の声がでてこないのはこわいですよ。被害者の立場で考えるとどうでしょう。

J 「釜ヶ崎は恐い所と聞いていたけど実際はそうではなかった」とここに足を運んだ人はよくいますね。日雇い労働者に共通して「やさしさ」がある。それが競争社会の中からはみ出されていく原因になっていることがありますね。

S そう。殺された須藤さんも大変正義な人

だったらいいですよ。本来やさしいものだから野宿する状況にも耐えてしまう。強ければ他のことをしていると思う。

N 思想的にはアナキーなものがあるかもしれない。だから組合運動などにもむつきしいものがありますね。組織や連帯が信じられない土壌がみられますね。他方、慣らされているというか。社会状況に受け身になる状態がありますね。だから助けを求め

S 助けを求めなかったと同時に通行人が助けなかったということがありますね。これは被害者よりもむしろ加害者の少年たちがシヨックを受けています。

J これは強烈な問題提起ですね。見て見ぬふりは日常的にあるわけですから。

O ケンカがよくあるのだけど見ているだけで誰もとめないですね。このあいだもその場に居合せてしかたがないから止めに入っただけです。男の人が沢山みてるのに誰もとめないもの。こわかったけど「やめなさいよ」といったらブツブツいいながらやめたの。なぜ誰もとめないのだろうと思うとやり切れなかった。いじめている人より廻り立って見ている人の方がこわいと思った

ですよ。

N これは問いとしてきびしいですね。あるケンカをとめたときにね、あとで一方が短刀を持ちだして私に「なぜよけいなことをした」と向ってきたのです。長い間押し問答しているうちに次第にきめてきてね、とうとう「お前も氣イつけよ」といって帰ってくれたんです。

J ケンカとめるというのはホントこわいよね。逆にこっちに向われると覚悟きめてやらんと。

O あとでふるえてふるえてね。けどあとで後悔するよりは……と改めてはいるのね。

J 被害者の声がとりあげられなかったとい

J 少数者の問題というのはどうでしょう。もう少し……。

N 私はいつも思うのですが、私たちがここにいる意味があるとすれば、ここの声にならない声を聞きとってそれを社会に投げこんでいくことだと思っています。

しかし、その叫びが受けとめられないま

うのは、やはり彼らが少数者なのでしょうね。

N 声にならない前におしこめられてしまうから報道されようもない。

S 日本は少数者に発言権を与えない。問題にならない人を問題にしないというか。差別というのは、この意味で問題にならない人をつくりだしていくことではないか。

O 人が「助けて」といっているときにはほっておいて、やられてからその人を見るという感じがしますね。

S 人間がごみ箱に入れられてひっぱり廻されて、それを通行人が見ていながら何もとがめなかったとすれば、その責任は大きいですね。

タコツボ文化

まに地の底に押しこめられている構造があるように思いますね。

S たとえば、字の読めない人がいますね。その人は電車の切符一枚買えないですよ。自動販売機の字が読めないもの。そういう人はここから出られない。行動半径がきめられてしまう。

N 日本は「タコソボ文化」なんですね。自

分の仲間は大切にするけど他の者は無視する。日本は日本だけで、アジアとかグローバルに物を見る視点が欠けている。

少数者という問題も視点を変えれば多数

者の問題なのです。少数者だ、少数者問題だといわれるときに、逆に少数者の声がか

き消されてゆくんですね。全体としては、これは多数者の問題なのです。そのなかで意識しているのはごく少数の人なのですが、

S たしかに問題は少数者の側にあるのではなく多数の側が考えねばならないですね。

D 夜間学校でこの横浜事件を話しあったときに二つの反応がでてきたのです。一つは事件に対する憤りがあり他方は自分は少しちがうという青カンする人に対するある種の蔑視がある。仕事をもってバリバリやっている労働者からみると、青カンしていることがダメなのだという埋めがたい溝がありますね。

N 労働者にしても、この事件は腹が立つという面とその反面なかなか自分の問題になり切らないという反応がありますね。

S しかし明日は我が身という感じは、どこかにあるでしょう。

O 自分は釜ヶ崎にしながら、「俺はこの

人間とはちがう」ということをよく聞きますね。この心情は何かしら。

S 「俺はしょうもないあいつらとはちがう」といういいかたがずいぶんありますね。

J 天皇陛下の問題ですよ。日本のタテ社会というののははっきりしているから……。

被差別部落がつくられたりして「あれよりはまし」という意識が創りだされてきたわけでしょう。そして逆に「上」のものに対しては卑屈な態度になるわけでしょう。

D それと同じ意味で釜ヶ崎の中に「朝鮮人」問題がありますね。

N 強烈にありますね。ある人が、他人を怒らせるために「あんた朝鮮人！」というのです。

J 俺は部落ではない。俺は朝鮮人ではないということがここである種の支えになっていますね。

S 俺はバタ屋ではない。日雇いだという人もいますね。

「浮浪者」という言葉の中にこの種の差別が明らかにみられると思う。それをマスコミが何の定義づけもしないでそのまま使っていますね。この事件で、なぜ「浮浪者」

がいるのかを何ら説明していない。

価値観を問う

J 我々はこれをどう担ってゆけるのでしょうか。

社会はこのタテの構造を巧みに利用していますね。上に服従して下はだまれというそれが今日の教育の中にも復活してくるわけですね。物いわない、無抵抗、無気力な使いやすい人間が生みだされてくる。これをどうのりこえられるか。

S 差別は人を殺すのだという声をほんとにあげなければならぬと思いますね。この事件が起っていても、「浮浪者」はきたないという差別があるからおとながみているでも無視したわけでしょう。

J 今の、きたないという意識ですね。この「クリーン作戦」もこれに支えられていますね。

N マスコミでも「スター」をつくりあげるわけで、そこに大衆の美の価値観が大きくあるのですね。

O どうして皆、人に見られることをあれ程

意識するのかしら。子供の服装でも、髪型でも。親の方が一生懸命に見られることを意識していますね。

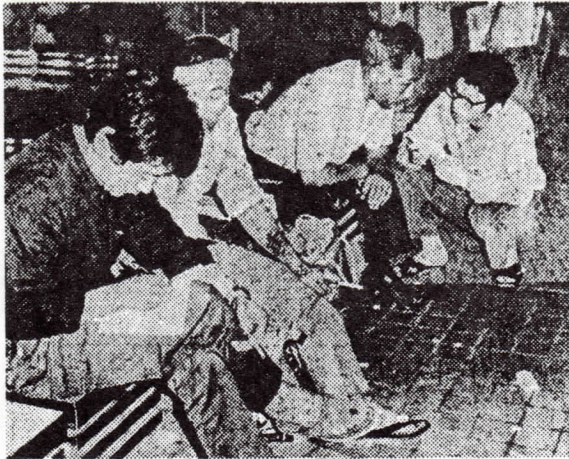
S 親の競争意識。その根底にある価値観はすごいですね。たとえば子供がロンドンやパリに行くのならば金ヶ崎へ行くこと

指紋採取、強引だった

釜ヶ崎労組が「任意」の反証続々

大阪府警南署が管内の浮浪者リストを作成するために指紋を採取、顔写真を撮影していた問題で、差別反対運動と取り組む釜ヶ崎日雇労働組合は十三日夜、大阪市内区内で寝泊まりしている浮浪者から同署が実施した調査の内容、方法の聞き取り調査を行った。

この結果、同署が「身元確認のためと趣旨を説明、任意に協力してもらった」と主張しているのに対し、浮浪者たちからは「バタヤが商店街で騒いだが犯人を知らんか、と尋ねられ、疑われていると思いを求めに応じた」（四十二歳の男性）、「アーケード街で寝ていたら、「犯



聞き取り調査を受ける浮浪者たち
— 十三日夜、大阪ミナミの地下街で

罪とは関係ないんやけど、ナイフか何か持ってへんか」と体を検査され、写真と指紋をとられた」（五十六歳の男性）、「午前三時ごろ起きてされ、急に「写真をとらせてくれ」といわれたんでびっくりした」（二十四歳の男性）などと、事情の説明がないまま、一方的に調査されたとの証言が相次いだ。同労組は「脅しに近い方法で任意性は認められない」と、この調査の結果をまとめ、近く大阪弁護士会の人権擁護委員会に人権侵害の申し立てをする。

「朝日」
一九八三・五・一四

はゆるせない。だから子供は親に内緒でこへ来る。そのシワよせが「旅路の里」へくるわけですよ。（笑）

J 親の立場からいうとね、子供の成長の過程でいくつかの闘いがありますね。たとえば「塾」に行かさない方針をつらぬくとか成人式にふりそでを着せまいとか……。これは大多数が塾に行き、ふりそでを着るわけですから……。

O 何がそうさせるのかしら。

S 日本は競争社会だもの。今、日本は競争社会を是認してるでしょう。だからそれから落ちた者は弱者だもの。弱者はまるで生きる権利がないかのように扱われてしまう。「弱者のことはほっといて、やる気のある者を相手にしろ」とよくいわれますね。

N 昔は仕事に誇りがありましたね。うちは百姓だったけど仕事をしながら誇りがありましたね。だけど今ではそんなきいたない仕事は誰もしたくないと考えられるのですね。J 価値観の根底に経済がありますね。

N そう、つましい生き方をどうつくれるか。つましく生きることが尊いことだという価値観をどれだけつくれるかというところだと思ふ。

労働の霊性というか、身体を使って働くことが尊いことだ、台所仕事が尊いことだという価値観ができないと教会もだめではないかという気がしますね。

J これは日本のなかに、日本の教会の中にもないですね。

S それはね、身体が弱くてバタ屋しかできないで一生懸命働いて一日五〇〇円ですよ。これがすごく尊いことなんだけどそれを尊いと思えない社会、そして教会があるのでね。

この人の悲しみ、教育を受ける機会を失って字が読めない書けないでいる人の悲しみを担えない価値観のくずれですね。
J 少なくともこのキリスト教のグループがそれをしっかりみつめていかないとね。
D 今、バタ屋している人の中に、かつては日雇い労働者としてバリバリ働いてきたんだという誇りがあるんですね。それは受けとめたいと思います。

N 痛めた身体を引きずって仕事をやるこのエネルギーは大変なものですよ。他の人の何倍かのエネルギーを使っていますね。その叫びをどれだけ受けとめられるかということに私たちの使命があるように思う。

この叫びは深く地の底に埋められているですね。

教会の目

J 教会がもっている目はどうなんでしょう。労働者が阪急電車に泥のついた服を着て乗って受ける視線に耐えられないという体験がありますね。その服装で教会へ入ったときに、やはり同じ視線を感じるのではないかと思うのです。

S だからここにいる他ないですよ。
N 横浜で殺された須藤さんはどういう叫びをもって死んでいったのでしょうかね。彼の個人史はどうだったのでしょうか。

S まるで虫を殺すように人を殺していますね。

N 死の問題もね。昔は死んで行く人に触れたですね。触れてだんだんつめたくなってきたんですね。触れて感じましたよ。

O 今は病院で機械的に死んでゆきますね。
S 何ともいえない気持ちですね。機械的に死んで、お祈りがなくて解剖しかないという。人間のたった一つしかないという尊厳

が感じられないですね。

J 池明観先生がある講演で「醜の神学」ということをいわれたんです。神学というのは一つの美でしょ。キリスト教の論理ですよ。これは美しくなければいかんわけです。それに対して「醜」から出発する神学ですね。

韓国で「民衆の神学」が生まれましたね。日本に「民衆の神学」が成り立つのかなあ。日本の民衆は美なんですね。醜を担っていないわけでしょう。とすると日本で「醜の神学」を成り立たせることのできる場はどこかを考えたいですね。

S 美しさというのは恐いですよ。きたないもの、邪魔ものは捨てるということにつながるわけですから。社会は美を求めますから。きれいごとで収めて深く掘り下げようとしな。だから今度の事件でもあまり深く掘り下げられないと思う。我々はこの問題にこだわらないと……。

J 皆美しくなりたいと思って、教会にもそれを求めて来るわけですね。どれだけきたなさにこだわって、そこにたたづめるかというところが課題のように思います。

